

国際ビジネスコミュニケーション学会

Japan Business Communication Association, February 2012

関西支部

2012年度 第1回 支部例会のご案内

【日時】

2012年2月19日(日曜日) 13:00 ~ 17:20

【会場】

同志社大学 今出川キャンパス 至誠館 S-4 教室

2012年度 第1回 関西支部例会(研究発表会)開催のご案内

2012年2月吉日

会員の皆様

関西支部 支部長 Alex M. Hayashi (常磐会学園大学)
支部長補佐 清水 利宏 (立命館大学)
高森桃太郎 (同志社大学)

「2012年度 第1回 関西支部例会」(研究発表会) 開催のご案内

2012年度 第1回の関西支部例会(研究発表会)を下記の通り開催いたします。

新年度を迎える関西支部の第1回例会では、恒例のオープニング講演に加えて、会員3氏によるプレゼンテーションが決定しました。「理論研究」と「教育実践」の両側面から、国際ビジネスコミュニケーションを議論する有意義な午後になることと存じます。おひとりでも多くのご参加をお待ちしております。

今回の例会は、同志社大学・今出川キャンパスが会場です。今回も、「日曜日」の開催を企画いたしましたので、寒い季節ではございますが、ぜひとも例会にご出席賜りますよう、お願い申し上げます。また、当学会にご関心をお寄せいただける方がおられましたら、ぜひとも会場へお招きくださいますよう、あわせてお願い申し上げます。

記

日 時： 2012年2月19日(日曜日) 13:00 ~ 17:20 (12:30 開場)

- 13:00 ~ 13:10 関西支部 支部長 挨拶
Alex M. Hayashi (常磐会学園大学)
- 13:10 ~ 14:10 オープニング講演
韓国の伝統文化と現代 — 社会・経済・生活を中心に —
- 韓 在熙 氏 (常磐会学園大学 専任講師)
- 14:20 ~ 15:00 実践報告
出席率を高めるビジネス講義を構築する一考察
- 西田淑子 会員 (サクセスインサイド・コミュニケーション)
- 15:10 ~ 15:50 研究発表(1)
One Consideration of Ringi-Workflow Implementation
at Our US Subsidiary
- ITSUJI, Atsuo 会員 (株式会社カプコン)
- 16:00 ~ 16:40 研究発表(2)
英語の社内公用語化論を巡る議論の整理と提言
- 則定隆男 会員 (関西学院大学)
- 16:50 ~ 17:20 支部総会
- 17:40 ~ 19:40 懇親会
会費は4,000円程度を予定しております。

会 場： 同志社大学 今出川キャンパス「至誠館」 S-4 教室
〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入

アクセス： ◇ 京都市営地下鉄 烏丸線「今出川」駅 3番出口 徒歩1分
◇ 京阪電鉄「出町柳」駅から徒歩15分
◇ アクセスマップ http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html
◇ キャンパスマップ http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_campus.html
※西門から入場して構内を直進しますと、つきあたりに位置するクラーク記念館の
左手前に見える建物が「至誠館」です。

参加費： 無料 (当学会 会員)
500円 (当日会員)

参加申込： Eメールでご案内を差し上げている会員はEメールで、郵便でご案内を差し上げている会員は同封の出欠通知のハガキで、**皆様 2月14日(火)までにお返事ください。**
※恐縮ながら、締切日が迫っておりますので、速やかにご返信ください。

Opening Lecture 13:10 ~ 14:10

■ 講演者プロフィール

韓 在熙 氏 — 常磐会学園大学 国際こども教育学部 国際こども教育学科 専任講師

ソウル崇義女子大学（幼児教育学専攻）・同志社大学（文化学科教育学専攻）で学んだのち、大阪教育大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻を修了（教育学修士）。名古屋市立大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 単位取得満期退学。主要な研究テーマは、「日本と韓国における幼児教育カリキュラム研究」「韓国における遊びの伝統と現在」「韓国語の教材研究」など。

■ 演題

韓国の伝統文化と現代 — 社会・経済・生活を中心に —

Cultural Trends in South Korea: Its Business and Society

■ 要旨

近年の韓国は、国をあげての世界化・国際化・情報化が進められ、経済的な成長とともに生活文化面における様々な文化変容をもたらしてきている。本報告では韓国の現代文化に受け継がれている伝統文化及び伝統的な価値観の変化が起きつつある現代の社会・経済・生活文化の最新動向について紹介したい。

（日本語による講演 45 分間、質疑応答 15 分間）

Presentations 14:20 ~ 16:40

■ 実践報告 14:20 – 15:00（発表 30 分間、質疑応答 10 分間）

出席率を高めるビジネス講義を構築する一考察

西田淑子 会員（サクセスインサイド・コミュニケーション）

発表要旨

2011 年度後期、選択科目で 4 科目の全履修者に対する平均出席率は 70%、4 科目中最高科目の出席率は 83.8%。遅刻、欠席、おしゃべり、途中退室、居眠り、をどうしたらなくせるのか、よりも、どうしたら面白い講義になるのか、を試行錯誤した現在の結果である。最終講義の学生のコメントは「たった半年間でしたが、国際にこんな素敵なおもしろい先生がいらっしゃることにとても驚き、とても楽しい授業でした。（大阪国際大学 宿泊ビジネスマネジメント）」、「今日で最後の授業だったので、ちょっとさみしいです！（鈴鹿国際大学 ホテルマネジメント）」、「今までにない授業方法だったので、授業も先生も全てが新しく楽しかったです。（大阪国際大学 旅行業実務 I）」なにが出席率を高める講義だったのか考察する。

■ 研究発表(1) 15:10 – 15:50 (発表 30 分間、質疑応答 10 分間)

One Consideration of Ringi-Workflow Implementation at Our US Subsidiary

ITSUJI, Atsuo 会員 (株式会社カプコン)

Abstract

This presentation studies how to reveal the background and change imperatives why Capcom had to implement Ringi workflow to its US subsidiary, as well as the process and their project styles have been chosen. Then the study goes to the introduction of our consideration of its success factors, benefits, and lessons learned. The scope of the business process in this presentation is “Ringi”, which is an organizational decision making process flow with an IT tool adopted at majority of companies in Japan. In 2011, Capcom USA management had a critical cost management issues, not having visibility of how the actual contract closing processes were controlled, that the management were only asked to sign the contract after everything is settled. Therefore, Capcom Japan management agreed to implement the similar system (Microsoft Sharepoint) we are using at headquarters. The local project team was built, and Japan IT dept. rolled out the system to US, supporting also project management activities. The project successfully went live in 5 months, and users and management appreciates the shortened process lead-time as well as the visibility of all the records of what and how they have made decisions.

■ 研究発表(2) 16:00 – 16:40 (発表 30 分間、質疑応答 10 分間)

英語の社内公用語化論を巡る議論の整理と提言

則定隆男 会員 (関西学院大学)

発表要旨

ユニクロのメーカーであるファーストリテイリングや楽天という知名度のある企業が英語を社内公用語にすると発表して以来、これに関する賛否両論が活発に繰り広げられている。一方こういった論争とはかかわりなく、企業は日本語能力を問うことなく優秀な外国人の採用を始めており、日本国内においても、企業内でのコミュニケーションは英語によらざるを得ないという実態は着実に拡大しつつある。

私は、以前“Corporate language strategy”と題する発表(学会年報、2007、66、pp.109-119)を行い、英語を社内公用語とするメリットとデメリットを示した。そして、企業のグローバル化の形態を分類し、いずれの場合に英語を公用語とすべきかを紹介した。この発表以降、上に述べたように、ビジネス界は英語の社内公用語の動きを加速させているが、それが根強い反対論を引き起こしている。

今回の発表では、この問題に関する賛否両論を整理し、改めてビジネスの視点から提言を行いたい。

2012 年度 第 1 回 関西支部例会 (研究発表会) ご案内

国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBICA) 関西支部
〒547-0021 大阪市平野区喜連東 1-4-12 常磐会学園大学 Alex M. Hayashi 研究室内
TEL: 06-4302-8880 FAX: 06-4302-8884
Email: alex23go3500@yahoo.co.jp
